第32回 協会賞決まる

千葉県俳句作家協会は、県内俳壇の資質向上と県民文化の振興に寄与するために、毎年、協会所属作家による二十句の俳句作品を募集。別記の審査員による選考会を経て、その業績を表彰し、更なる県民文化の進展の一翼を担っている。

本年度も昨年十二月十五日に応募を締切。応募作品二十八篇の氏名を伏せて、選者各位に選考を依頼し、二月十一日に選者九名による真摯で熱の籠った最終選考会を開催。左記の受賞作品を決定した。選考の過程については、後述の「協会賞選考過程」をお読みくだされば幸甚である。

贈賞式は五月六日（日）の通常総会の場で行われる。当日は俳句会・懇親会も催されるので、受賞者は勿論、会員諸氏多くの出席を改めてお願い申しあげたい。

協会賞他の受賞者が、この受賞を機に更にお力を蓄えてくださり、俳壇への一つの足掛りとなるよう各俳句総合誌への働きかけ等、当協会としても最大限の努力を重ねてゆく所存である。

来期第33回協会賞に、本年を越す諸氏の力作をお寄せくださるよう願って止まない。

（審査員　増成栗人）

協会賞　「白木槿」　茶谷　静子（柏　市）
次　席　「旗　手」　稗田　寿明（佐倉市）
同　「信　書」　林　ゆみ（松戸市）
佳　作　「ひととせ」　藤井　元基（船橋市）
同　「四季の下総」　安部　由美子（成田市）

◇

審査員

秋尾　敏
川合　憲子
三枝　かずを
塩野谷　仁
染谷　卓
田所　節子
能村　研三
増成　栗人
村上　喜代子

協会賞審査会

真木

第　185　号

〒261-0004
千葉市美浜区高洲
1-14-9-503
田所節子方
千葉県俳句作家協会
事　務　局
TEL 043-277-1056

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目　次

第三十二回協会賞決まる ……1
協会賞受賞作品 ……2
千葉県俳壇ニュース ……5
追悼 今留治子先生、結社賞 ……6
ひろば、会員著書紹介 ……7
追悼 村山さとし先生、受贈誌より ……8
通常総会・千葉県俳句作家協会賞贈賞式のご案内、
第60回千葉県俳句大会ご案内、事務局日誌 ……9

協　会　賞

茶谷静子（柏市）

「白木槿」

小流れに出合ひと別れ雪間草
やうやくに犬の名決まり木の芽晴
はなむけは心に太陽卒業す
けんかして鞦韆高くたかく漕ぐ
自由てふ空に繋がれ鯉のぼり
教へ子の五十路の集ひ花は葉に
薔薇園を抜け来て小さき薔薇に会ふ
走り梅雨父の机にガラスペン
翡翠のよぎりて残す風の色
掬はれて金魚に家路生まれけり
青春に音無き軋み青林檎
今しがた別れて来たり白木槿
伝言を託し流灯水に置く
かまつかや影にも色のあるごとし
爪先に風来て釣瓶落しかな
初時雨ここからは海見えたはず
老犬と寒夕焼の中にゐる
足るだけの光待ちをり冬木立
セーター解く未来予想図描きながら
こぼしては拾ふ言葉や龍の玉

協会賞　次席

旗手

稗田　寿明

秋立つや再起動して見ゆるもの
忘れ扇銚子駅から折り返す
風を知る秋の風鈴こたへけり
新涼や水面に映る風車小屋
風の音スラーでつなぐ秋の蝶
秋の蟬つがひとなつて落ちにけり
無欲とは言へぬ顔つき青瓢
役人の鑑のやうな鉦叩
その菓子はまだ売られをり墓参り
ふるさとを誰しも語り星月夜
真夜中の招集メール野分来る
野分あと捨てらるるもの拾ふもの
頬骨を車窓に映す秋思かな
大脳の進化のかたち鶏頭花
水澄みて亀の泳ぎのあらはなり
栴檀の実は音もなくふれあひぬ
鰯雲こころの襞のかたちなり
雁渡る旗手の掲ぐる志
手をひろげ手をつなぎあふ花野かな
秋深し色えんぴつのまろき芯

協会賞　次席

信　書

林　ゆみ

追悼の野遊びなれば手を繋ぐ
空席に折鶴ひとつ花の冷え
海の音胸に育てて六月来
水紋は心の地図か半夏生
蕺菜の花の中なる無一物
逢いたき日白花百日紅ちらし
遠き雷アガサクリスティの庭かな
アイスクリーム匙の窪みにある不滅
炎天下ハシビロコウになっている
羅をたためば淡き死のにおい
萎えてゆく母という文字白芙蓉
秋の航かもめ一羽を味方とす
母の音父の音して木の実降る
にんげんに秋霖という信書かな
木の実独楽大地にもある疎外感
睥睨の鶏頭万の種こぼす
一匹の魚に出合う十三夜
ずぶ濡れの柴苑終わらぬ数え歌
柿落葉盆の窪より暮れてゆく
父の忌のモモンガ啼いて夜具重し

協会賞　佳作

ひととせ

藤井　元基

加賀手毬金糸銀糸に春立ちぬ
祝い鯛踊る成人式の膳
打つ鍬に他のやはらかき春隣
自在なる傘寿の腕鍬始め
咲き満ちて桜天下を取りにけり
菜の花の一望千里入り日かな
甲斐・信濃分かつ峠や春霞
群れなして木曽馬動く大夏野
朝顔市団十郎の売られけり
大言壮語まかり通れるビヤホール
万巻の書に埋もれて梅雨深し
粒ひとつ噛みて稲刈る日をきめる
笠とれば少年なりき秋遍路
灯火親し一念発起「史記」を読む
冬支度山小屋に打つ支舞ひ釘
結願や残暑の笠の塵払ふ
パリへ出す文送る日の星月夜
人なつこき賢治の国の赤とんぼ
あらくれの身にもふるさと盆の月
存へて有為転変や藍浴衣

協会賞　佳作

四季の下総

安部由美子

山影をしかとなぞりて初氷
誰が活けし一枝（ひとえ）のさくら御手洗（みたらひ）に
花大根今年でしまふ米作り
それぞれの向きに墓標や鳥帰る
鼻につく眼鏡のあとや春の雨
ほどけ雲けふは鰆を買ひませう
筍を今年は茹でて持ち呉れし
あやめ舟花より低く巡りけり
光入るやうに瀬の音夏座敷
立て膝で涼しく爪を切ることよ
金木犀余生の花と思ひけり
星の井と呼ばれてをりし今も澄む
閼伽桶へ汲みし井の水雁渡し
ためし掃きしてより箒木大振りに
虫の音の一番手前鉦叩
星月夜たれも一度は家を出て
冬の靄城跡真中兵舎跡
はらからの欠けし夕来る蕪汁
冬柳店（たな）に朱塗りの箸お椀
あと一でふ（ちょう）寺百畳の畳替

第三十二回協会賞選考過程

協会賞の最終選考会は、二月十一日、千葉市の「ホテルプラザ菜の花」において開催された。

審査員九名全員が出席し、選考基準の確認の後、予備審査の結果を参考に活発な意見が交わされ、別表の通り決定した。（文中敬称略）

応募作品は次の通り（到着順）。「ひととせ」藤井元基、「土に生きる」山田隆士、「草の絮」金子日出子、「室の花」斎藤和子、「波音」吉岡麻琴、「白木槿」茶谷静子、「素顔」小野功、「旗手」稗田寿明、「放物線」服部直道、「こころ」鈴木秀子、「信書」林ゆみ、「天寿は百寿」西本幸、「総の地」伊藤隆、「杵音」斉藤るりこ、「京都御所」大久保文夫、「アプレゲール」八川信也、「とうすみ蜻蛉」小見恭子、「四季の下総」安部由美子、「熱帯夜」古谷誠司、「十三夜」飯田協子、「灯火」高橋敏夫、「青葉木菟」川崎和子、「昭和の子」中尾教子、「遊び心のあるやうな」鈴木真沙枝、「初明り」田辺ゆかり、「母の写真」関戸信治、「山形紀行」鈴木英子、「ノーサイド」清野敦史。

最高点は「白木槿」の24点。「旗手」の14点、「信書」の13点がそれに続く。「ひととせ」が11点、「四季の下総」が10点。以下、「初明り」と「母の写真」が9点、「総の地」8点、「ノーサイド」7点、「アプレゲール」と「とうすみ蜻蛉」「熱帯夜」が5点、「波音」と「素顔」が4点、「杵音」3点、「土に生きる」と「室の花」が2点であった。

始めに、得点上位5作品と、9点だが委員二名が二位に推していることから、「初明り」を最終審議の対象にすることが確認された。最高点の「白木槿」は、委員二名が一位に推しており、二位が二名、三位が二名と、評価が高い。常識的発想や観念的なところも見られるが、全体的に句が揃って破綻がなく、読み手の心に届く明るい作品となっており、落ち着いた詠みぶりで好感が持てること、また九名の委員のうち六名が三位以内に推していることからも協会賞に決定した。

次に、「旗手」「信書」「ひととせ」については、得点に差がないので同時に審議することとした。「旗手」は佳句が多く、俳味のある句もあることや着想が豊かである。「信書」は観念的なところもあるが、新しい世界に挑戦している姿勢が感じられる作品。この二作は甲乙付けがたく、両作品を次席とすることで決定した。「ひととせ」は季語がすわっており無難な作品だが、四字熟語が多く、類型感で終始しており、「四季の下総」は佳句が多いが、わかりにくい句もあるので、両作品を佳作とする。「初明り」は詩性が感じられ、季題も生きているが、擬人化表現や従来的な発想に難があることから惜しくも入選を逃した。

（高橋健文 記）

協会賞選考基準

①委員の半数以上が、五位以内に推薦した作品であること。

②委員の一人以上が、一位に推した作品であること。

③右の①②の条件を満たしていることを基準とするが、場合によっては①②のいずれかに該当していれば審議の対象とする。

第32回 協会賞入賞作品審査表

（応募作品　28篇）

番号	表題	成績	審査員査定順位								得点	作者名	住所	所属結社
			秋尾敏	川合憲子	三枝かずを	塩野谷仁	染谷卓	田所節子	能村研三	増成栗人	村上喜代子				
1	ひととせ	佳作			1			5	1			11	藤井元基	船橋市	花林
6	白木槿	協会賞		1	3		2	2	3	1		24	茶谷静子	柏市	かまつか柏葉句会
8	旗手	次席		2			3		2		3	14	稗田寿明	佐倉市	沖
11	信書	次席	4			1				5	1	13	林ゆみ	松戸市	遊牧
18	四季の下総	佳作	2	3		3						10	安部由美子	成田市	航

審査員（50音順）

【採点】　1位＝5点
2位＝4点
3位＝3点
4位＝2点
5位＝1点

▼訂正　前号（一八四号）五頁、第三回千葉県俳句大賞選考対象句集の句集名（井上けい子著）が間違っていました。左記訂正しお詫び致します。

正　『森の在所』
誤　『森の所在』

千葉県俳壇ニュース

当協会能村会長　千葉県教育功労者表彰

昨年十月十八日、平成二十九年度千葉県教育功労者が決定し、当協会の能村研三会長が芸術文化の部・個人部門で功労者として表彰されました。

この表彰は県内における教育、学術又は文化の振興に関し、特に功績の顕著であった個人又は団体を教育功労者として表彰されるものです。

なお表彰式は十一月一日、「ホテルポートプラザちば」にて開催されました。慶祝。

（編集部）

第三十八回四街道市文化祭俳句大会

日時　平成二十九年十一月十二日
会場　四街道市文化センター

源流主宰賞
　茜雲帰り遅れし寒鴉　　置鮎　隆一

市長賞
　しがらみを断つごと外す蔦かずら　　土肥　勲

議長賞
　生業（なりわい）を誇る十指や秋収（おさ）め　　望月　麗子

教育長賞
　花野きて心の重石を置きにけり　　浅見美代子

農業協同組合長賞
　木枯やビルの谷間にさ迷へり　　下田　力

商工会長賞
　秋灯や開きし本に時代（とき）を読む　　海老沼季衣
⑦翳（かざ）されし核に戦（おのの）く案山子かな　　西村　峰子
⑧凩が持ち去り持ち込む世の情　　山﨑　弘美
⑨古里へ無垢の涙の天の川　　池田　幸
⑩若者の孤独弾けるハロウィーン　　稲垣　武雄

（小出治重　報）

第四十三回君津市民芸術祭俳句大会

日時　平成二十九年十一月十九日
会場　生涯交流学習センター・参加者四十八名

①単線の暇な枕木小鳥来る　　石井紀美子
②廃線の先は故郷柿の秋　　泉　志眞子
③言えそうで言えぬ「ありがと」ちゃんちゃんこ　　福川　逸美
④ひびの手や夢ばかり書く日記帖　　木村みどり
⑤かいつぶり母の深さへ潜りけり　　加藤　法子
⑥クリスタルのエレベーター浮く十三夜　　広上　あい
⑦水仙の花より低くカメラマン　　吉田　安子
⑧てっぺんに踏んばる八十路松手入れ　　福川　政美
⑨恩師逝く白き焔の芒原　　坂本千惠子
⑩歳月を冬日にくるみ老母眠る　　原田　芳女

（西井理平　報）

第四十七回千葉市民芸術祭参加「市民春の俳句大会」

日時　平成三十年三月四日（日）十二時から
会場　千葉市民会館三階・出席者四十五名

入賞者（○内は順位）

兼題の部（応募句四五三句）

千葉市長賞
　たましいの火照るまで佇つ朝焚火　　椿　良松

市議会議長賞
　朝刊のかすかな温み寒の入　　森　孝人

千葉日報社賞
　書初の撥ねに勢ひの掠れかな　　平野みち代

千葉市観光協会賞
　鬼柚子へ日はでこぼこと暮かかる　　秋元　隆子
⑤啓蟄や重い扉は青く塗る　　松村　五月

席題の部

千葉市教育長賞
　春なれや贈る木の椅子木の机　　加藤　峰子

千葉市文化連盟会長賞
　みどりごや春の光をにぎりしめ　　金沢りつ子

千葉市俳句協会会長賞
　からからと兜太の声か涅槃西風　　三枝　青雲
④待つということ光りだす牡丹の芽　　山中　葛子
⑤島の春鍬に顎のす立ち話　　平野みち代

（山﨑幸子　記）

「初蝶」誌創刊四〇〇号記念号を発行

中山和子代表「初蝶」は、本年二月号で創刊四〇〇号を達成、同号を記念号とした。慶祝。

小笠原主宰、田部谷編集長を喪って一年余となり感慨深い記念号の発行となった。

（同誌二月号より）

追悼　今留治子 先生

石橋 みちこ

この度前会長の今留治子様が動脈瘤破裂によりご逝去なさいました。

ここに深く哀悼の意を表します。

前日までお元気になさっておられ、お電話で「二人で忘年会しましょうか」などとお話しになられ「年末はなにかと気忙しいですから新年会にいたしませんか」とお答えしましたところ、「そうね、一月にみんなとばあっと賑やかにしましょうか」というご返事をされて、それが最後の電話になってしまいました。

しばらくはご逝去が信じられませんでした。

思えば平成十九年から二十七年迄の八年間を千葉県俳句作家協会会長としてお元気にご活躍され、「萬緑」の私達には千葉支部長として亡き萩原季葉先生の後を忙しくご活躍なさいました。千葉市民俳句会の会長もなさっておられました。また「葛城」という俳句会を主宰されるようになり随分お忙しかったことと思いますが、いつもお元気でお一人で頑張っておられました。何度か葛城にお誘いを受けましたが、凡人の身でこれ以上忙しく動けないのでお断りしておりました。

今留様はいつも明るくお話し好きで楽しそうでした。私にはご自分の子供時代にお母様から受けた教育を懐かしそうに話して下さいました。

三人のご子息をお医者様にされ、一年前にご他界されたご主人様のもとに旅立たれた今留治子様、今度こそゆっくりとお休みになって下さい。

色々とありがとうございました。

市川市芸術祭
第六十九回市川市市民俳句大会

期日　平成二十九年十一月二十三日

会場　全日警ホール・八幡市民会館

共催　市川市・市川市俳句協会

四季雑詠、一組二句。出句六〇二句

上位入賞作品（〇内は順位）

①代掻くや泥を尊きものとして　猪瀬　達朗

②ぱりと焦がし二百十日のパンの耳　柴﨑　英子

③こんと鳴く指の狐よ障子貼る　木村　美翠

④蓑虫の身をのり出せる日和かな　楠原　幹子

⑤肩肘を張るなと糸瓜ぶらさがる　竹内　空夫

⑥啄木の低き教卓秋の声　大沢美智子

⑦いつの間に婦唱夫隋やとろろ汁　臼井　秀明

⑧釣瓶落し焚き口の火が爆ぜてゐる　森　祐司

⑨かるく空持ちあげて採る青き梨　鎌田　光恵

⑩秋の風鈴鳴るは鳴らざるより淋し　樋口　英子

⑪初鰹女の声が糶おとす　大河内卓之

⑫団栗も子も眠りたる保育園　江波戸ねね

⑬蓮根掘り地球にづぼと身を埋め　茂呂　昇平

⑭粧ひし山河いよいよ寄り添へり　柴﨑　英子

⑮草枯れて浮くサッカーの忘れ球　望月　晴美

⑯かなかなの序章のままに終りけり　町山　公孝

⑰草いきれ日暮はいつも後から　梅園　久夫

⑱一瞬に一生をかけ蟬の羽化　須山　登

⑲月を詠むためのカーテン引きにけり　田原　陽子

⑳蜷の道アラビア文字にさも似たり　髙橋　道子

（楠原幹子記）

結社賞

平成二十九年度ろんど各賞

ろんど功労賞　有本惠美子・池端英子

桜貝白き巨泉の遠さかな　惠美子

ならやまの野の人となりレモン水　英子

ろんど賞　阿部綾子・田伏博子

だんまりも戦術のうち秋刀魚焼く　綾子

婚の荷の隅に臍の緒日脚伸ぶ　博子

ろんど新人賞　伊藤訓子・斉藤るりこ・酒井靖子

アラビアの騎士の出さうな星月夜　訓子

水琴窟の音聴く春の音を聴く　るりこ

東窓北窓も開けパンを焼く　靖子

（「ろんど」十二・一月号より）

第二十四回鳳声賞・百鳥賞

鳳声賞　高柳かつを・大和あい子・酒井康正

文豪の信条簡素風薫る　かつを

山頂駅星見るためのハンモック　あい子

羽衣もかく軽からむ蛇の衣　康正

百鳥賞　杉本今子

エレキ音渦巻く野外星河かな　今子

第二回帆翔賞　小出　功

船洗ふ無言の父子や鳥帰る　功

（「百鳥」一・二月号より）

平成二十九年度鴫賞・新人賞

鴫賞　坂場章子

刃に触れて自ら裂けてゆく西瓜　章子

新人賞　鎌田光恵

茶の花や牛が大きな顔を出し　光恵

（「鴫」一・二月号より）

平成三十年度夏日特別作品入賞（一席～七席）

何かうごめく八月の潮溜まり　丸澤　孝子
思ひ出は小さきハモニカ小鳥来る　河野　悦子
行く先の日向日向に蜻蛉かな　堀田　淳子
稲架棒の鎧のごとし陸奥は　佐藤　弘子
秋の水塗り替へてゐる神の橋　西岡千代子
竹林の乾く風音神の留守　渡辺みよ子
鳥渡る吊り鐘型の法の窓　北原　弘子

（「夏日」三三二号より）

いには同人賞・いには賞

いには同人賞（第八回）　該当者なし
いには賞（第十二回）　辻　忠樹・木嶋純子
多喜二忌や空重ければ海もまた　忠　樹
春休たまごサンドと置手紙　純　子

（「いには」二月号より）

ひろば

県内俳句協会・俳句連盟紹介

白子町文化協会

しらこ俳句会

昭和三十年（一九五五年）三町村合併により白子町が誕生しました。

白子町文化協会には、現在三十七のサークルがあり「しらこ俳句会」もその中の一つとして毎月二回句会を開き活動をしています。

向日葵の月にあそぶや漁師たち　普羅

海岸近くの白子荘の庭に建つ句碑で、九十九里いわし漁の盛んな時代の若き漁師達を詠んだ前田普羅の句です。

前田普羅の父親は、白子町に生まれました。普羅は、白子の近隣市町村をたびたび訪れて、句会に出席し俳句を指導しています。普羅の発足させた「梛（なぎ）の葉会」の流れをくむのが「しらこ俳句会」であります。

超結社の句会ではありますが、例年八月は普羅忌句会として行なっています。毎月発行の会報「しほさゐ」は、現在五六九号を数えています。

白子町の「広報しらこ」へ毎月作品を発表するとともに、文化祭・生涯学習フェスティバルには色紙を展示し発表しております。

（しらこ俳句会会長　片岡幹男　記）

会員著書紹介

第15回掌編自分史作品集

●『ここが私のターニングポイント～転機が私を変えた～』

かすがい市民文化財団　編

愛知県春日井市が表題をテーマに全国から募集した自分史、応募作品一三三篇のうちの入賞作品四十二編を収載したエッセイ集。当協会理事小野正之氏の作品「青天の霹靂」が収録されている。

氏の入賞は三年続いての快挙。人生の転機となった大事故で障害を負った次男が、家庭を持ち独立する迄の壮絶な人生を綴る。

著書『鉄の時代を生きる』句文集『俳句の細道』

（平成30年2月発行・かすがい市民文化財団）

●句集『夢祝』　**塩野谷仁　著**

「遊牧」代表、「海程」同人、当協会副会長を務める著者の『私雨』に次ぐ第八句集。船橋市在住。

平成二十六年から二十九年までの三四〇句を収載の珠玉集。海程賞受賞、現代俳句協会賞受賞、同協会監査役兼協会賞選者。評論集『兜太往還』。

花過ぎの水を掬えば水に闇
いまは昔のけむり真っ白夢祝
我らみな無頼派くずれ海鼠嚙む

（平成30年3月発行・邑書林）

●句集『比田誠子集』　**比田誠子　著**

（自註現代俳句シリーズ・12期29）

「百鳥」同人、「鳳声賞」の選考委員等でご活躍の著者の自選三〇〇句に自註を付した一書。

昭和五十二年より平成二十八年の作品を収載。句歴四十年の歳月が光る。百鳥叢書俳人協会評議員、松戸市俳句連盟副会長。句集『漏刻』『朱房』。

凍星へ少年笛をくりかへす
楡大樹雲染むるほど芽吹きけり
まつすぐに蝶たちのぼる雪解富士

（平成30年3月発行・俳人協会）

●自選句集『竹のこえ』　**竹声会　編**

野口糸朗主宰「竹声会」の平成二十九年度の自選句集。二十三名参加、自選十句に〝我が故郷〟をテーマの短文を付す。主宰が「知識の安定的行為化」を執筆、表紙絵を九十八歳の友氏が描き、充実した会の年間活動を写真で綴る心温まる一集。

透かし見る青葉の奥もなお青葉　野口　糸朗
エンディングノートの余白去年今年　野口　友
春立つや大地はすでに身籠れり　原田　芳女

（平成30年3月発行・竹声会）

追悼　村山さとし 先生

三枝 かずを

昨年十一月二十五日、本会顧問の村山さとし先生が逝去された。享年九十一歳。

先生は大正十五年生、旧制浦和高校を経て千葉医科大学に学び、卒業後、薬理学の研究者となった。千葉大学医学部教授、医学部長を経て千葉大学名誉教授。瑞宝中綬章を授章。

俳句は高校時代より「萬緑」に投句。千葉医大入学後は「やはぎ会」でホトトギス同人、加賀谷凡秋に師事。卒業後は専ら「やはぎ会」で後進を育て、多くの医師俳人を輩出した。萬緑同人。萬緑賞受賞し中心作家として活躍した。

千葉県俳句作家協会には創立時より参加し、常任委員、副会長を務めた。特に協会の合同句集第一集（1974）編集には柴田白葉女会長の下に故平川雅也氏と共に尽力し、今日の基礎を築かれた功績は大きい。その他、加賀谷凡秋の跡を継ぎ、長年、毎日新聞千葉版『房総文園』の選者を務めた。

作風は客観写生で基礎を鍛えた描写力で草田男に学んだ文芸としての叙情性を追求した。

男同士の声の密度や百千鳥
秋涛の高きは暮れず九十九里
誰も持つ青春の隈雪女郎

私事を述べれば、私は学生時代より各別なお世話になり、先生の晩年迄何かとご意見を頂いた。孤高の詩人でありながら、情にも厚い人だった。謹んでご冥福を祈る。

●合同句集『響焔V』　**響焔俳句会 編**

「響焔」創刊六〇〇号を記念して刊行されたアンソロジー。参加者一一〇名。それぞれの顔写真と略歴に三〇句ずつを収録した大集である。

山崎聰主宰、名誉同人の作品より。

全景はほたるぶくろの中にこそ　山崎　聰
漂泊と違うさびしさ春の雲　川村　四響
地の涯のように人湧き花篝　駒　志津子

（平成30年3月発行・紅書房）

●句集『旅』　**山﨑幸子 著**

「好日」の主要同人で、好日賞、白雲賞受賞の実力作家。『風岬』に次ぐ第三句集で五四〇句を収載。長峰竹芳主宰が、軽快で切れ味の良さを称える帯文を寄せる。現代俳句協会会員、千葉県現代俳句協会副幹事長、千葉市俳句協会事務局次長。

古稀過ぎの脳ふんばつて水を打つ
けふもあすも旅の途中や吊し柿
大根蒔く地球に穴をあけながら

（平成30年4月発行・現代俳句協会）

受贈誌より

あびこ（三三五号）
バス降りて上着のいらぬ小春かな　染谷　卓

いには（四月号）
背もたれは空見る角度木々芽吹く　村上喜代子

浮巣（四月号）
山裾の神の扉ひらき午祭　大木さつき

沖（四月号）
剥製のほろろ打つやう春の雷　能村　研三

音信（四月号）
直滑降雪炎の中笑顔あり　白鳥紅星子

かずさホトトギス（五八六号）　**松風（五六号）**　三枝かずを

水神の開かぬ扉や東風の波　松山　足羽

川（三・四・五月合併最終号）
手の平の二錠重たし小春凪　山崎　聰

響焔（四月号）
馬嘶くその夜たくさん雪降って　逸見　真三

草の実（三月号）
人生はなべてジグザク枯野道　昼間たつお

原人（四月号）
げんこつのひとつきりなり春の雷　増成　栗人

鴻（四月号）
大寒小寒抱へるほどのものが欲し　長峰　竹芳

好日（四月号）
電柱の春めいてゐる訪ね猫　実籾　繁

雑草（四月号）
消えそうで消えぬ過去なり春氷　髙橋　道子

鳴（四月号）
囁きはささやきを呼び芽吹山　秋尾　敏

軸（四月号）
人間の隙間を探す揚雲雀　中路　素童

新暦（三八五号）
染井門開きて花の六義園　本田　攝子

獺祭（四月号）
春雨や引き戸の軋む古本屋　望月　百代

夏日（三三四号）
山焼きの頃よ夜空の深くあり　菅野　孝夫

野火（四月号）
枝の雪こぼれて雪に沈みけり　中山　和子

初蝶（四月号）
猫で拭く泪もありぬ寒夜かな　武田　和郎

半島（四月号）
電池替え即立春を指す時計　内海　良太

万象（四月号）
氷柱より日の出る村や裏筑波　大串　章

百鳥（四月号）
春星を仰ぐ遺影と別れ来て　塩野谷　仁

遊牧（一一四号）
この街のこの辻を曲れば朧　すずき巴里

ろんど（四月号）
春の野にわたしを置きにゆくところ

平成三十年度通常総会・千葉県俳句作家協会賞贈賞式のご案内

当協会の通常総会と贈賞式を左記の通り開催します。
皆さまお誘い合わせの上、ご出席ください。

記

日時　五月六日（日）　受付開始十二時より
会場　「ホテルプラザ菜の花」三階「菜の花」
　　千葉市中央区長洲一－八－一
　　電話〇四三（二二二）八二七一

【第三十二回協会賞贈賞式】十二時半より
　受賞者　茶谷 静子氏 他

【通常総会】十三時より
　報告とお願い
　・基金を募集、ご協力ください。
　議題1来年度（三十一年度）より年会費三千円
　　2平成二十九年度事業報告及び決算報告
　　3平成三十年度事業計画及び予算他
　　4その他
　※別途送付の葉書で出欠をお知らせください。

【新緑交流会】十四時より
　俳句会・懇親会　会員各位に案内送付済
　事前投句二句　投句料千円
　懇親会　六千円
　※協会賞の祝賀を兼ねます。

平成三十年四月吉日

千葉県俳句作家協会
会長　能村 研三

第60回 千葉県俳句大会 ご案内

募集作品　**一般の部**
　雑詠　2句1組　（投句作品は、自作で未発表のものに限ります。
　　投句は何組でも可で、組単位に採点、授賞致します）
応募資格　千葉県内を俳句の活動拠点とされている方。
締　切　**平成30年7月20日（金）（当日消印有効）**
出句料　一組　1,000円　投稿に添付（なるべく定額小為替でお願いします）
送付先　〒263-0024　千葉市稲毛区穴川2－2－12　平岡 育也 方
　　千葉県俳句大会・一般の部事務局　（電話 043－251－7284）
特別選者（記念講演あり）　片山由美子（俳誌「狩」副主宰・俳人協会常任理事）

募集作品　**ジュニアの部**
　雑詠　1句（投句作品は、自作で未発表のものに限ります）
応募資格　千葉県の小・中学校に在籍の児童・生徒
締　切　**平成30年7月31日（火）（当日消印有効）**
出句料　無　料
送付先　〒270-0157　流山市平和台2－10－14　小野 正之 方
　　千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局　（電話 04－7159－5503）

お知らせ

今年度、会員名簿の作成を予定しています。
住所等掲載を希望しない方は**五月十日**までに左記へご連絡をお願いいたします。

◆連絡先　〒261－0004
　千葉市美浜区高洲一－十四－九－五〇三
　田所 節子 方
　千葉県俳句作家協会事務局（名簿作成）
　TEL 043－277－1056

★年会費納入のお願い

「真木」前号（一八四号）に、年会費の振込用紙を同封いたしましたが、まだ未納の方は、至急お納めくださるようお願い致します。

事務局日誌

◆**第五回理事会**（出席者三十一名）
日時　2月11日（日・祭）15時から17時
会場　千葉市「ホテルプラザ菜の花」
議事　1　第三回千葉県俳句大賞について
　　2　第三十二回協会賞について
　　3　千葉県俳句大会について
　　4　新春交流会・俳句大会・懇親会について
　　5　会報「真木」一八四・一八五号について
　　6　秋季吟行会について
　　7　その他、事務局報告

会員異動
謹計　田山　馨　小笠原眞弓
　　堀部　映子　松山　足羽
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

千葉県俳句作家協会　祝45周年

現代俳句同人誌　師系　金子兜太

遊牧

代表　塩野谷　仁

同人費　一年　二〇〇〇〇円
誌友費　一年　六〇〇〇円

〒273-0033
船橋市本郷町五〇七－一－二－三〇七
遊牧俳句会
電話　〇四七－三三六－一〇八一
FAX　〇四七－三一五－七七三八

一度きりの今を楽しむ

いには

主宰　村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代１年 12,000円（月刊）
半年　6,000円 見本誌 500円

－いには俳句会－

〒276－0036
千葉県八千代市高津 390－211
電話　047－458－1919
Fax　047－458－1895
振替　00280－9－131469
HP検索：いには俳句会

俳誌

あびこ

主宰　染谷　卓

誌代（隔月刊）　一年　四〇〇〇円

〒270-1138
我孫子市下ヶ戸二八五
TEL　〇四－七一八二－四四四一
郵振替　〇〇一〇〇－四－一八九〇七四
あびこ俳句同好会

人間の総量を

鴫

創刊　田中午次郎
再刊　伊藤白潮
選者　髙橋道子

誌代　一ヶ月　一、〇〇〇円（送料共）
一　年　一二、〇〇〇円

〒277-0827
柏市松葉町四－七－二－三〇五
荒木甫方　鴫発行所
電話　〇四－七一三三－七六三二
振替　〇〇一八〇－四－六一五七二
http://shigi-haikukai.com/

創刊　昭和23年

原人

伝統俳句に現代の詩情を

名誉主宰　三枝　青雲
主宰　昼間たつお

誌代　一年　一二、〇〇〇円

発行所　原人社

〒260-0824
千葉市中央区浜野町四〇七－十六
TEL・FAX　〇四三－二六五－四三三三
振替口座番号　〇〇一七〇－四－六四八五九七

心を満たす俳句

鴻 koh

「鴻」俳句会

主宰　増成栗人
師系　角川源義　吉田鴻司

発行所
〒271-0087
松戸市三矢小台二－四－一六谷口方
電話　〇四七－三六三－四五〇八
FAX　〇四七－三六六－五一一〇
◆誌代／年間　一二、〇〇〇円

創刊二十五周年
俳句文芸の真・新・深を志す

ろんど

創刊　鳥居おさむ
主宰　すずき巴里

誌代　一年　一二〇〇〇円

〒262-0042
千葉市花見川区花島町四三二－一〇
ろんど発行所
電話・FAX　〇四三－二二五八－〇一一一
本部〒167-0023東京都杉並区上井草一－二八－二
振替　〇〇一五〇－九－七〇二一〇七

創刊50周年

軸

軸俳句会
主宰　秋尾　敏

〒278-0005
野田市宮崎95－4
電話　04－7122－3921
Fax　050－5552－9110
82円切手３枚で見本誌贈呈

月刊俳誌

沖（おき）

俳句ルネッサンス

主宰　能村　研三

新会員募集中

誌代　1年／15，600円
半年／　7，800円
見本誌　1冊　800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552